

大阪市立大学文学部の

歴史をふり返る

大阪市立大学は2022年4月より、「大阪公立大学」となります。そこで本特集ページでは、「大阪市立大学文学部」の設立から現在に至るまでの歴史を振り返ります。その中で、文学部支援機構の活動や、新学科設立における今後の展望などについて、先生方にインタビューしたのも掲載しています。本特集を通じ、大阪公立大学移行後への展望を開いていただく一助となれば幸いです。



2017年



1968年



五代友厚像

1880
(明治13年)
「大阪商業講習所」開設

1928
(昭和3年)
旧制「大阪商科大学」誕生

1945
(昭和20年)
第二課程(夜間)設置

1950
(昭和30年)
杉本学舎、アメリカ軍から明け渡し命令を受ける

1953
(昭和28年)
文学部が創設

1955
(昭和30年)
杉本学舎がアメリカ軍から全面返還される
→翌年、文学部が杉本キャンパスに戻る

1949
(昭和24年)
「大阪市立大学」発足
法文学部文学科設置
→12専攻(哲学、社会学、心理学、教育学、芸術学、歴史学、地理学、国文学、中国学、英文学、独文学、仏文学)

2001
(平成13年)
正式名称を「大阪市立大学大学院
文学研究科・文学部」に改称
大学院にアジア都市文化学専攻が設置されたほか、言語文化学専攻に言語情報学(現在は言語応用学)専修と表現文化学専修が、学部の言語文化学科に言語応用コースと表現文化コースが新たに誕生

2002
(平成14年)
フォーラム人文学 No.0(準備号)発行
次年度より毎年発行

2004
(平成16年)
第一回文学部生向け就職支援セミナーを開催

2005
(平成17年)
第一回卒業支援セミナー開催
第一回院生合同研究会

2006
(平成18年)
第一回新入生歓迎キャンプ開催
レポートセミナー&1回生交歓会開催

2007
(平成19年)
学生スタッフにより『文学部案内』が全面的に編集・作成

2008
(平成20年)
第一回進路支援セミナー開催
第一回留学支援セミナー開催

2009
(平成21年)
第二課程(夜間)の募集停止

2010
(平成22年)
第1回履修相談会開催

2012
(平成24年)
文化構想学専攻/学科設置
4専攻16専修(学部は4学科15コース)へ再編

2020
(令和2年)
文化構想学科設立に対する想い
文化資源コース 小田中章浩 先生

文化構想学科は、文学部にとって2001年の言語情報と表現文化という二つのコースの導入以来の改革になります。21世紀に入ってからの文学部は、伝統的な学問分野を尊重しつつ、新しい領域にも挑戦してきました。文化構想学科の検討を始めた頃(2015年前後)、一部の論者が国公立大学における文系学部不要論を唱えていました。そこで特に問題になるのが文学部です。一見、何の役に立たないような学問をしているところなので、それから6年が経ち、今ではトレンドが大きく変わったように思います。日本の持続可能な成長のために、文化は個人が楽しむだけでなく、産業としても守り育てていかなければなりません。文化構想学科はこうした社会の期待に応えるものと自負しています。その一方で、文化は単に金儲けの手段ではなく、深く、多面的な世界の見方を教えるものです。私は文化構想学科で学ぶ学生に、人生を創造的に生きるための「知」を身につけてほしいと思っています。そうした「知」が蓄積されることによって、社会をよりよく変えていく力が生まれることを願っています。

2001 (平成13年)

正式名称を「大阪市立大学大学院
文学研究科・文学部」に改称
大学院にアジア都市文化学専攻が設置されたほか、言語文化学専攻に言語情報学(現在は言語応用学)専修と表現文化学専修が、学部の言語文化学科に言語応用コースと表現文化コースが新たに誕生

2002 (平成14年)

フォーラム人文学 No.0(準備号)発行
次年度より毎年発行



1986年

2003 (平成15年)

文学部創立50周年を記念し
「文学部・文学研究科教育促進支援機構」発足
第一回学生によるコースガイダンス開催 / オープンキャンパス開催 / 研究活動支援の開始

文学部・文学研究科教育促進支援機構への想い

ドイツ語フランス語圏言語文化コース 福島祥行 先生

設立当初は教員主導ですすんだ教育促進支援機構の活動ですが、2006年の文科省のGP(全国の大学の優れた教育的試みに対し助成金を交付するもの)申請のさいのチームに学生を入れたことが契機となり、学生主導に変化していきました。このとき参加してくれたTくんを中心とする教育支援、Nさんを中心とする研究支援が、コース・回生を越えた学生たちの力で回りはじめ、翌2007年の新歓キャンプ、文学部案内作成、オープンキャンパス企画、院生合同研究会、文学カフェという、学生発案の公式企画へとつながっていきました。そしてこのときから、先輩が後輩を指導するというヒエラルキーではなく、メンバーが協働するというフラットな構造のなかで、協働しながら企画を作りあげつつ、自己の学びを獲得していくという、支援機構のありようは変わっていません。他者との協働は、きわめて面倒くさいものですが、それを楽しみつつ乗り越えることは、じつは一生モノの学びであったと、後になって気づくはず。

新大学意識調査

大学統合に対する学生の意識調査を行いました。本アンケートには、57名の方にご協力賜りました。この場で感謝いたしますとともに、結果の一部をご紹介します。

新大学について知ってることランキング

- 来年度から新大学が誕生すること (93%)
- 既存の学部が複数のキャンパスに分かれること (82.5%)
- 授業時間が変更されること (75.4%)
- 文学部は森ノ宮キャンパスに移動する予定であること (73.7%)
- 新大学開校後も、現1回生以上は大阪市立大学の卒業生となること (68.4%)

その他の回答
大学統合により、学生数約1万6千人の全国最大規模の公立総合大学になること / 学部編成が変わること / ハム大と呼ばれていること

新大学への期待度

「あまり期待していない」とも「とても期待している」とも期待している

期待していることランキング

- 新しいキャンパスへの移転 (19.3%)
- 新しい授業カリキュラム (17.5%)
- 元府大生との交流 (15.8%)

その他の回答
学部が増えることにより、他学部との交流がさらに盛んになること / サークルや部活が増えること / 入学金免除

新大学への不安度

「あまり不安ではない」とも「とても不安である」とも不安である

不安なことランキング

- 新大学になることで具体的に何がかわるのかよくわからないこと (64.9%)
- 制度面での変更があること (31.6%)
- キャンパスが移動すること / いくつか移動するかわからないこと (26.3%)

その他の回答
新キャンパスの設備が十分なものであるかどうか / 土曜日の補講、夏休みの短縮 / 市大としての部活やサークルの活動が無くなること